



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第173号 2016年8月号

SINCE 2002.4.1.

発行日平成28年7月28日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

ル・コルビュジエ

フランスの建築家ル・コルビュジエの設計による東京・上野公園の国立西洋美術館が、世界7カ国に広がる17作品の革新的な作品のひとつに挙げられ、「ル・コルビュジエの建築作品」として、世界文化遺産に登録されました。国立西洋美術館は、鉄筋コンクリートやガラスなど当時の先端的な素材や技術を駆使して、1階部分の壁を取り去り柱だけで支えるピロティや横長の連続窓、屋上庭園といった斬新な建築デザインとなっています。今回の国連教育科学文化機関（ユネスコ）世界遺産委員会の決定で、日本の世界遺産は計20件（文化遺産16件、自然遺産4件）になりました。（参考・神奈川新聞）



花言葉「清らかな心」

三溪園で夏恒例の早朝観蓮会が開催されています。蓮の花は、明け方からゆっくりと開き始め、午前7時頃一番の見ごろを迎えます。その後、午前9時頃から再び閉じ始め、昼ごろには完全に閉じてしまいます。泥の中から清らかな花を咲かせるため、俗世間から現れた優れた人材にも例えられ、インドでは聖者の花、中国では君子の花とされています。ちょっと早起きをして、原三溪が愛した蓮を楽しみましょう。

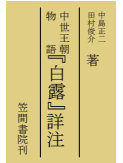


早朝観蓮会
7月30日(土)31日(日)
8月6日(土)7日(日)
午前6:00~午前8:30

皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20. **Next50**
創刊 2002.4.1.

よこすか文学館

中古、中世の物語文学を中心に研究されている中島正二氏に、歴史、小説、映画などジャンルを越えて「よこすか」が舞台となった芸術作品を紹介していただきます。
(すまい造りメール第77号参照)



第八話

吉田松陰の日記

『癸丑遊歴日録』は吉田松陰の嘉永6年(1853)の日記です。1月26日に萩を出発し船に乗り、四国の金比羅にも立ち寄り、大阪に到着後は陸路。京都を散策し、中仙道を通って3月24日に江戸に到着しました。6月、ペリーが浦賀に來航、松陰は早速駆けつけます。品川まで船で行き、川崎、神奈川、保土ヶ谷、金沢を経て、野島から大津までは船で行きます。そして、6日、「加茂井(鴨居)」から「賊艦四隻」が錨泊しているのを見ます。松陰はアメリカの国書を日本側が受領する9日まで横須賀に滞在しますが、その間、久里浜の人々が災難を恐れて、牛や馬に家具を載せて佐原あたりに避難しているのを目撃しています。



野島と夏島

洗足学園中学高校教諭
中島正二

平成24年のリフォーム工事以来、介護保険制度を利用した住宅改修工事や住宅設備のメンテナンスを担当させていただいているお住まいをご紹介します。

今回は、趣味のNゲージ鉄道模型のコレクションを壁にディスプレイしたいというリクエストです。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

ディスプレイする面の壁は、木材(胴縁)の上に、石こうを固めたボード(12.5mm)を貼り、クロスで仕上げているもので、ケースを止めるビスが効きません。そこで、アンカービスを取り付けてからディスプレイケースを設置しました。

「毎日眺めていますよ。子供たちも喜んでます。」
というお言葉をいただきました。



「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ピフォア、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。



横須賀製鉄所物語（製鉄所建設前の横須賀村）〈26〉

52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀製鉄所についてお話を伺いました。

横須賀製鉄所、横須賀海軍工廠、在日米海軍基地と時代の流れの中で施設が整備され、その利用形態も変わる中、横須賀のまちも変化を続けました。しかし、在日米海軍基地を見る場合どうしても現在の目線で見えてしまいます。製鉄所建設以前の横須賀に視線を合わせるには市立博物館の『横須賀市内近代遺産総合専門調査報告書』によって当時の横須賀を知る事が出来ます。「横須賀村は、丘陵が断崖となって海につながり、居住は不適な土地であった。住民は少なく、主として漁業を営んでいた。しかし、徳川幕府がフランスに製鉄所建設を依頼した時、その港湾が好適とされ、慶応元年、工事が開始された。（略）この時期の市街地の中心は、汐留、本町であった。製鉄業務に必須な水道や製鉄所警備のための警察組織の整備、また郵便局など近代都市的な設備の設置は早かった」と記されています。そして同報告書によりますと横須賀製鉄所建設以前の横須賀村について「明治以前の三浦半島は浦賀、三崎を中心に繁栄しており、横須賀はその経由地にすぎなかった。丘陵の尾根線が主要路として形成されていたものの道幅二間ほどであったという。特に、陸路で横浜方面に至るには十三峠（塚山）の難所を越えねばならず、徒歩でもこんなほどであった。輸送は主に海上輸送に頼った。江戸時代の末期より、汐留から榎戸経由で野島浦（横浜市金沢区野島町）への渡船が不定期に往来していた。この渡船場は金沢湊と名付けられた」と記され、更に横須賀村半島部の住居について「泊に12戸、楠ガ浦に34戸の集落が形成され、そのほか民家が散在し、合わせて96戸という小村であった。村民は主に漁業および農業によって生計を立てていた。（壮者は概ね常に銚子、九十九里浜等の魚家に傭われ生計の一助と為す）とあるように、村民の生活は楽ではなかったようである。（略）また、深田村には18戸、中里村に19戸、不入斗村に37戸、佐野村に33戸あり、主に農業を営んでいた。公郷村には250戸あり、主に農業および漁業に携わっていた」と記されている。以上の報告書から分かるように横須賀は陸の孤島の中に小さな集落が集積したまちでした。

（元横須賀市助役 井上吉隆）



①浦賀道のうぐいす坂（上町1丁目付近）
②案内板（以下案内板の説明文）

浦賀道のうち、この周辺はうっそうとした樹木に覆われ、うぐいすの鳴く音が絶えないので、特にこの坂は「うぐいす坂」と呼ばれていました。

やまない雨はない？

風が吹けば嵐になり、雨が降れば豪雨になるといったように、昨今では、限度を超えた気象現象が発生しています。「生活の場」「くつろぎの場」として、快適で安心して暮らせる住まいは、誰もが望むところですが、適切なメンテナンスを怠り、放っておいた場合は当然のことながら、生活していくうちに確実に老朽化します。雨漏りはしていないか、軒先に傷みはないかなど、常日頃から、こまめに点検をして手入れをして、集中する豪雨や強烈な台風にも備えましょう。



◆屋根部分 点検部位/建材	主な点検ポイント	◆外壁部分 点検部位/建材	主な点検ポイント
□瓦葺き （日本瓦・洋瓦など）	棟部分の瓦や漆喰の固定状態や、瓦のずれと割れを点検する	□モルタル壁 （スタッコなど）	外壁の汚れや色落ち、亀裂などを点検する
□スレート （コロニアルなど）	スレートのずれと割れ、色落ちや、鉄板部分のサビを点検する	□サイディング （窯素系・ALCなど）	外壁の汚れや色落ち、亀裂、割れ、シーリングの劣化などを点検する
□雨どい （塩化ビニル製など）	樋のつまりや割れ、変形、金具のサビと固定状態などを点検する	□金属板 （アルミ鋼板など）	外壁の汚れや色落ち、サビ、ずれ、変形などを点検する

お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2016」A-9歩ZONE版（永久保存版）をダウンロードすることができますので、アクセスしていただき、ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索